

松川浦における幼稚魚生息状況

福島県水産試験場 相馬支場

1 部門名

水産業—資源管理—マコガレイ、イシガレイ、アイナメ、メバル

2 担当者

佐藤 太津真

3 要旨

松川浦に出現する幼稚魚の種類・分布量の変動をモニタリングした。このうち、水産上有用なイシガレイ、マコガレイ、シロメバル、アイナメの稚魚の出現状況から、2015年における発生水準を把握し、今後の資源動向を予測し、漁業再開に向けて資源の適切な利用方法を検討・提言するための基礎資料とする。

- (1) 2015年4月～11月にかけて松川浦の6調査定点(図1)において、幅2m・高さ1.5m・袋網目合2mmのビームトロール5分曳による採集調査を実施し、1曳網あたりの採集個体数を求め、過去の調査結果と比較した。
- (2) 2015年6月～10月の当歳魚採集個体数は、イシガレイ16個体、アイナメ28個体、マコガレイ25個体、シロメバル0個体であった。2015年級の採集密度は、イシガレイは震災後低水準横ばい傾向で推移しているが、前年の密度を下回ったことから、発生水準は低水準と考えられた。マコガレイは発生が悪かった2007年、2009年の水準は上回ったが、ここ2カ年連続して減少していることから、引き続き低水準と考えられた。アイナメの採集密度は安定して推移しており中水準と考えられた。(図2)。
- (3) 2015年4月～10月の調査では30種524個体が採集された。採集個体数が最も多かったのはアサヒアナハゼ、次いでスジハゼ、タケギンポの順であった。出現魚種組成を過去の結果と比較すると、種数に大きな変化は見られず、ハゼ類の密度が高い傾向は同じであった。震災前に密度が高かったマゴチは震災後低水準であったが、2015年には震災前の密度となっていた。

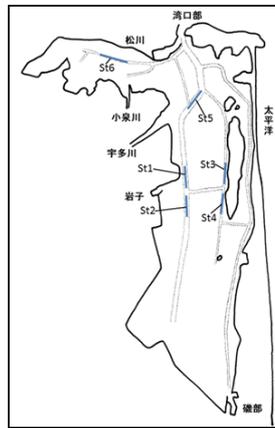


図1 調査定点

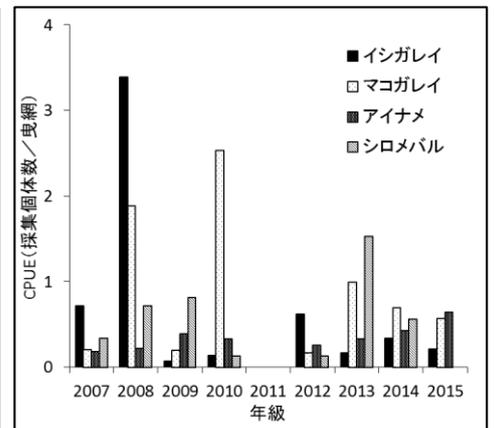


図2 当歳魚採集密度の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～27年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成8年度～26年度福島県水産試験場事業概要報告書